

## 講演要旨

### 『ルソン海峡で観測された海嶺上に捕捉された内部潮汐』

ルソン海峡では、南北に伸びる海嶺上を潮汐流が通過することにより、密度成層を横切る流れが生じ、海中を伝播する大振幅の波（内部潮汐）が周期的に発生します。講演では、海嶺で発生する内部潮汐とそれに伴う混合現象の時間・空間変化を捉えることを目的として2017年11月に行った観測をもとにした研究成果を紹介します。観測では、海嶺を横断する観測経路を設け、経路を往復しながら投下式水温計（XBT）と船底の音響流速計（ADCP）による観測を繰り返し実施しました。その結果、海嶺の直上で水温の逆転や、鉛直方向に逆転する強い流れが観測されました。また、海嶺直上で流速が大きくなる潮汐流の影響を考慮し、内部潮汐の伝播過程を計算した結果、内部潮汐の一部が海嶺上に捕捉されていることがわかりました。